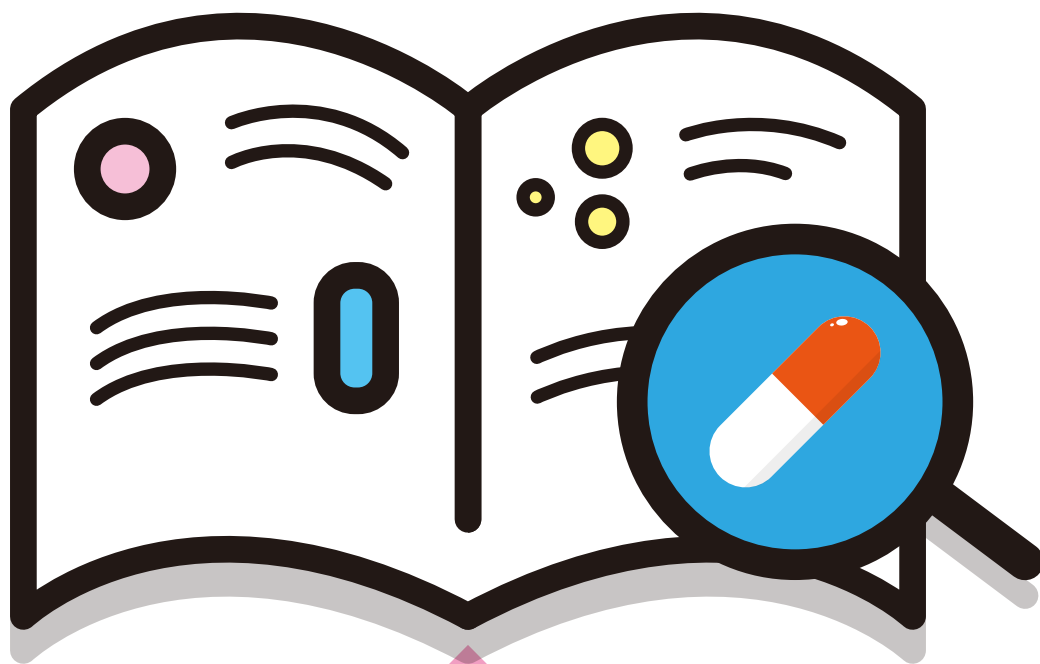


## JPS97特別企画

# クスリがわかる

## シリーズ講演



## 作用機序 × 使い分け

代謝・内分泌系 / 腎・泌尿器系 / 漢方

期間

2023年

12月14日

12月15日

会場

神戸国際会議場・  
神戸国際展示場2号館

## 3つのテーマについて「基礎」と「臨床」の視点からペア講演

クスリの作用機序（基礎）から使い分け（臨床）までを網羅する「クスリがわかる」シリーズ講演を医療職（医師、薬剤師、歯科医師、獣医師、看護師等）や学生を対象として開催します。

第97回日本薬理学会 / 第44回日本臨床薬理学会学術総会の

参加登録者は誰でも参加可能です。

皆様のご参加をお待ちしております。





### 3つのテーマについて「基礎」と「臨床」の視点からペア講演

12月14日(木) 14:40~15:40



#### 代謝・内分泌系

### スタチンだけじゃない!高脂血症に効くクスリ



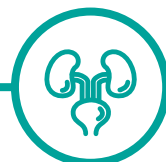
**茂木正樹** 先生  
愛媛大学大学院医学系  
研究科・薬理学



**今村武史** 先生  
鳥取大学医学部医学科  
薬理学・薬物療法学

高脂血症治療薬は、動脈硬化予防の観点より生活習慣病を有する症例を含めて幅広く使われている。スタチンやPCSK9阻害薬は確実なLDLコレステロール低下薬として使用されており、フィブラート系薬剤やEPAは高中性脂肪血症改善薬として使用されることが多い。こうした治療薬は血管障害を防ぐだけでなく、抗炎症作用や血流改善効果なども期待されている。ここでは各薬剤の作用機序について概説し、症例に合わせた使い分けについて紹介する。併せて開発中の新薬についての情報もお示ししたい。

12月14日(木) 15:50~16:50



#### 腎・泌尿器系

### 痛風・高尿酸血症治療薬の基礎と臨床



**安西尚彦** 先生  
千葉大学大学院  
医学研究院薬理学



**大内基司** 先生  
千葉大学大学院  
看護学研究院健康増進看護学

以前より高尿酸血症は腎機能障害との関連が示唆され、治療薬は(尿酸)生成抑制薬と(尿酸)排泄促進薬に大きく分類される。生成抑制薬の分子標的はキサンチン酸化還元酵素(XOR)であり、構造によりプリン型と非プリン型XOR阻害薬に分類される。排泄促進薬の分子標的は腎臓近位尿管細胞に発現する尿酸トランスポーター、主にURAT1であり、トランスポーター作用の修飾が本態である。作用するトランスポーターの種類により、通常の排泄促進薬に加え、選択的尿酸再吸収阻害薬がある。本講演では尿酸生成抑制・排泄促進薬を中心に、作用機序と使い分け、血清尿酸値へ影響を与える他の薬物も紹介し、包括的な理解となるよう目指したい。

12月15日(金) 16:20~17:20



#### 漢方

### 漢方薬の作用機序を理解し、実際の処方につなげる



**上園保仁** 先生  
東京慈恵会医科大学  
疼痛制御研究講座



**近藤奈美** 先生  
埼玉医科大学国際  
医療センター支持医療科

漢方薬は中国より伝わり、その後日本の土壌、日本人の体質に合わせ発展してきた日本オリジナルの方剤(薬剤)である。近年「漢方薬がなぜ効くのか」が科学的根拠をもって明らかになってきた。本講演では、漢方薬の作用機序について、漢方薬の多成分が生体のマルチターゲットに働いて総合的に作用していることを基礎医学をベースで紹介し、作用機序に基づく処方選択について、漢方薬を処方している臨床医の立場から講演を行う。